

[成果情報名] 2010年の山形県におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況

[要 約] 山形県において 2010 年はコイヘルペスウイルス病が 8 件確認され、発生件数は前年を 3 件上回った。2010 年は、比較的早期（6 月）から発生し、また、発生場所に関しては公園や学校等の池や堀（全体の 25%）が、発生地域については庄内地方（38%）における発生頻度が高かった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] コイ、コイヘルペスウイルス病（KHVD）、発生状況

[背景・ねらい]

コイヘルペスウイルス病の経年的な発生時期や発生場所を調査して、今後の防疫対策や防疫指導に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. 2004 年 6 月 4 日に本県において初めてコイヘルペスウイルス病（以下 KHVD）が確認されてから、本年で 7 年目となった。
2. 2010 年の KHVD の発生はマゴイ及びニシキゴイにみられ、6～8 月と 10 月に合計 8 件が確認された。発生場所は、個人池が 6 件、公園や学校等の池や堀が 2 件であった（表 1）。
3. 2010 年の KHVD の発生件数は、前年（5 件）より 3 件増加した。また、2010 年は 6 月から発生が認められ、2007 年以降では最も早期から発生した。発生件数のピークは 8 月（4 件）であったが、これについては他の年とほぼ同様であった（表 2）。
4. 経年的な KHVD 発生場所の割合を見ると、殆ど毎年養殖・加工・釣り堀等業者において発生があったが、2010 年は発生が認められなかった。また、公園や学校等の池や堀における発生割合（25%）が最も高かった（図 1）。
5. これまでの KHVD 発生地域の割合を見ると、2007 年以外では置賜地方の占める割合（30～67%）が高かった。2010 年は庄内地方における発生割合（38%）が最も高かった。（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 依然として感染源となりうる感染耐過魚は県内に広く存在すると推定されるので、発症したり、斃死したコイは速やかに埋却あるいは焼却処分をするなど、決して川や池に捨てることのないよう、現在、県で実施している防疫対策を今後とも継続していく必要がある。

[具体的なデータ]

表1 2010年のKHVD発生件数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
養殖・加工・釣り堀等業者	0	0	0	0	0	0	0
天然湖沼河川や用水路	0	0	0	0	0	0	0
公園や学校等の池や堀	1	0	1	0	0	0	2
個人池	1	1	3	0	1	0	6
計	2	1	4	0	1	0	8

表2 KHVDの月別発生件数(2004~2010年)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
2010年	2	1	4	0	1	0	8
2009年	0	2	1	2	0	0	5
2008年	0	0	5	5	1	0	11
2007年	0	4	4	3	1	0	12
2006年	1	1	1	0	0	0	3
2005年	3	6	4	1	2	0	16
2004年	12	11	32	9	4	1	69

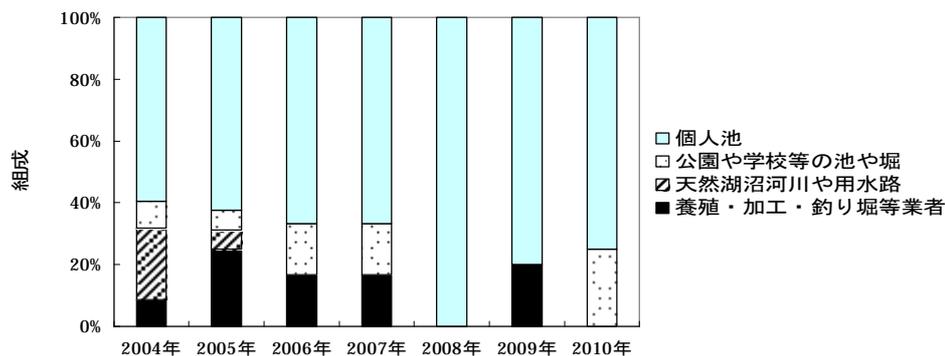


図1 KHVD発生場所の割合(2004~2010年)

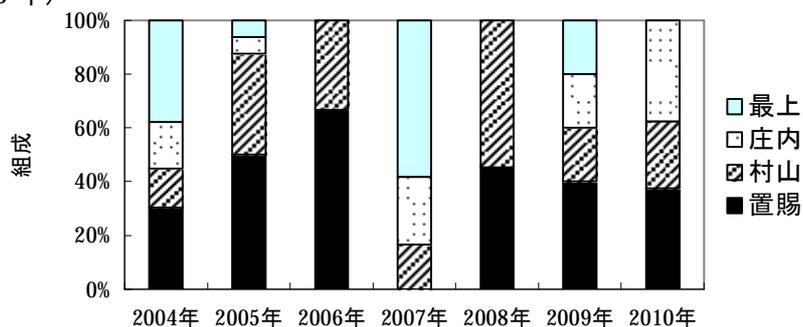


図2 KHVD発生地域の割合(2004~2010年)

[その他]

研究課題名：KHVまん延防止対策事業

予算区分：国庫

研究期間：平成22年度

研究担当者：平野 央、大川恵子、粕谷 和寿

発表論文等：なし